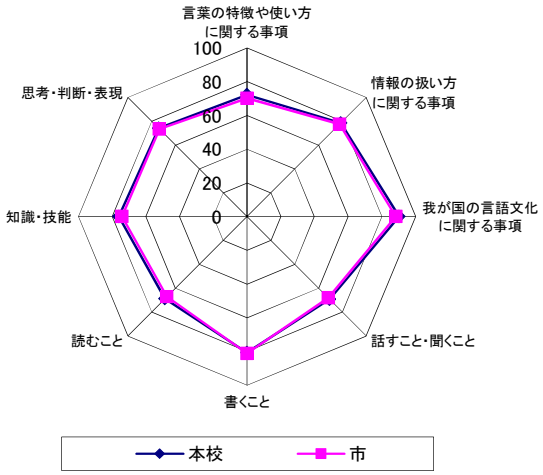
宇都宮市立陽東中学校 第３学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.3	70.2	64.7
	情報の扱い方に関する事項	78.6	77.6	71.1
	我が国の言語文化に関する事項	90.2	88.3	79.1
	話すこと・聞くこと	69.2	68.2	67.4
	書くこと	80.6	81.1	71.7
	読むこと	68.9	67.2	61.3
観点別	知識・技能	76.0	74.2	67.9
	思考・判断・表現	74.1	73.5	67.0

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

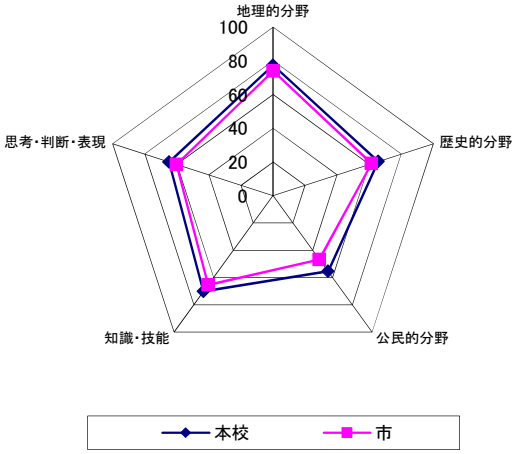
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○市の正答率を2.1ポイント上回っている。「漢字の読み」では，市の正答率を2.7ポイント上回っている。「漢字の書き」では，市の正答率を1.3ポイント上回っている。「敬語」では，市の正答率を3.1ポイント上回っている。 ●「漢字の読み書き」において，市の正答率を下回っている漢字もある。	・正しい「漢字の読み書き」を指導した上で反復練習に取り組ませ，漢字の力の定着を図る。 ・他教科や普段の生活に関連する言葉に興味をもたせ，実生活に生きる言葉の力を身に付けさせる指導を行う。
情報の扱い方に関する事項	○市の正答率を2.0ポイント上回っている。「情報と情報との関係について理解し,自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している」か問われた問題では,市の正答率を1.8ポイント上回っている。 ●「情報と情報との関係について理解し，論理の展開の仕方を捉えている」か問われた問題では，市の正答率を0.1ポイント上回るに留まった。	・情報と情報との関係について理解するために,図や表にまとめる方法を指導する。 ・情報と情報との関係について理解し,論理の展開の仕方を捉えるために,文章の内容を視覚的に表して説明する。
我が国の言語文化に関する事項	○市の正答率を1.9ポイント上回っている。「歴史的仮名遣いについて理解している」か問われた問題では,市の正答率を1.1ポイント，「現代語訳を手掛かりに古典を読んでいる」か問われた問題では，市の正答率を2.9ポイント上回っている。	・古典作品を音読して言葉遣いや言い回しに慣れさせ，古典に興味をもたせる指導を行う。 ・現代語訳を手掛かりに古典を読む力をつけるために，言葉の意味の違いを理解する指導を行う。
話すこと・聞くこと	○市の正答率を1.0ポイント上回っている。「話の展開を予測しながら聞き，自分の考えを深めている」か問われた問題では,市の正答率を3.6ポイント上回っている。 ●「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している」か問われた問題では,市の正答率を1.3ポイント下回っている。	・話の展開を正確に捉えるため，記号を使ってメモを取ったり，重要な言葉を聞き逃さないようにしたりする指導を行う。 ・自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する力をつけるために，相手を意識した内容を考える指導を行う。
書くこと	○「レポートを書く」ことに関する問題では,市の正答率を3.9ポイント上回っている。 ●「書くこと」の分野は，市の正答率を0.5ポイント下回っている。特に「文章を書く」ことに関する問題では，市の正答率を3.9ポイント下回っている。	・自分の考えを明確にして書くことができるよう,自分の立場を明確にすること,また相手が納得する理由や根拠を書く指導を行う。 ・自分の意見を適切な言葉で表現できるように，語彙力を高める授業展開を行う。
読むこと	○市の正答率を1.7ポイント上回っている。特に,「論理の展開の仕方を捉えている。」か問われた問題では,市の正答率を4.0ポイント上回っている。 ●「情報と情報との関係について理解し，論理の展開の仕方を捉えている」か問われた問題では,市の正答率を0.1ポイント上回るに留まった。	・目的に応じて文章を読み獲得した情報から自分の考えをもち、それを相手や場面に応じて適切に表すことを通して内容を的確に読み取る指導を行う。 ・情報と情報との関係について理解し，論理の展開の仕方を捉える力をつけるために，グラフや図表を用いた文章を教材として取り扱い，その読み取り方の指導を行う。

宇都宮市立陽東中学校 第３学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	77.4	74.0	67.9
	歴史的分野	65.6	61.5	56.1
	公民的分野	55.5	46.9	40.7
観点別	知識・技能	70.1	65.5	60.6
	思考・判断・表現	64.8	60.2	52.7

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

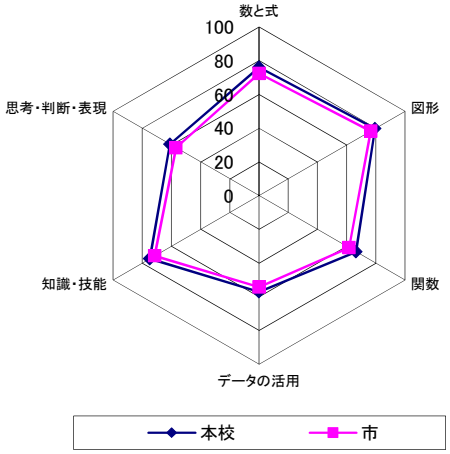
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○全体的に市の平均を3.4ポイント上回っている。 ○世界の姿についての問題では，すべての項目で市の平均を上回っている。 ●日本の地域的特色の環境問題について，複数の資料から考察して表現する問題では，2.7ポイント市の平均を下回っている。	・ICT教材を有効に活用し，グラフ等の変化や推移など，注目すべき点をを視覚的に読みとらせるとともに，地理的事象を様々な資料をもとに考え表現させたりするなど思考力や表現力の向上を図っていく。 ・授業の中で，地図資料や統計資料などを多く用いて，その地域やその国の特色や，その資料から分かることを的確に読みとり，記述する活動を多く取り入れる。
歴史的分野	.○全体的に市の平均を4.1ポイント上回っている。 ●江戸時代の蘭学についての理解の問題では，市の平均を1.9ポイント下回った。	・複数の資料を組み合わせて読み取ったり，必要な資料を選択して読み取ったりする活動を行い，資料を多面的・多角的に読み取る力を身に付けていけるようにする。 ・文化の特色については，羅列的に語句を教えるのではなく，絵画，映像，レプリカなど様々な資料を見せることにより，その時代を大観できるよう工夫する。
公民的分野	○全体的に市の平均を8.6ポイント上回っている。 ○日本国憲法の三つの基本原理について問う問題では市の平均を11.5ポイント，公共の福祉について問う問題については市の平均を14.6ポイント，新しい人権について問う問題については，市の平均を18.6ポイント上回っている 。 ●日本国憲法が国の最高法規であることを理解しているかを問う問題については，正答率が低かった。	・身近な出来事をきっかけとして関心をもたせ，授業につなげていけるようにする。 ・知識の習得とともに，人権の問題や，政治の問題，国際問題など様々なことについて考えさせ，思考・判断・表現能力をのばしていきたい。

宇都宮市立陽東中学校 第３学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	76.2	72.5	71.3
	図形	79.5	76.5	68.1
	関数	66.4	61.7	50.3
	データの活用	57.0	54.2	43.5
観点別	知識・技能	74.8	71.5	66.7
	思考・判断・表現	61.0	56.9	45.8

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

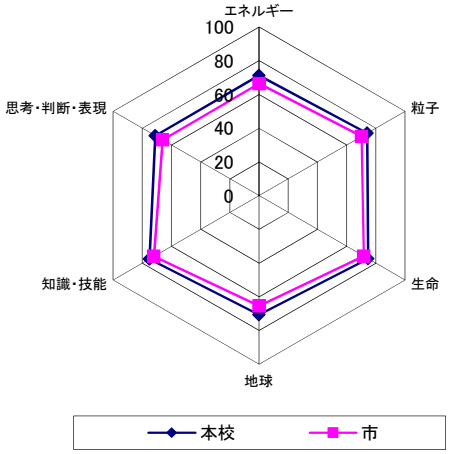
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○市の平均を3.7ポイント上回ることができた。また，おおむね6割以上の正答率である。 ●乗法の公式を使って式を簡単にする問題や$(x+m)^2=n$の形の二次方程式を解く問題では，全国平均を下回った。	・因数分解の公式や，それを利用した問題を中心に演習させる。また，公式を教え込むのではなく，なぜその公式が成り立つの図形の面積をもとにして考えさえる。
図形	○すべての問題において，市の平均や全国平均を上回っている。 ●垂線の性質を理解し，三角形の高さを作図する問題の正答率はほかの問題と比較して低かった。	・作図の問題を振り返る必要がある。作図の復習をする際に，「どのようにして作図するのか」だけでなく，「なぜそのようにして作図できるのか」問いかけて考えさせていく。
関数	○すべての問題において，市の平均や全国平均を上回っている。 ●グラフ上に頂点をもつ正方形の辺の長さを求める問題は，正答率31．4ポイントと低かった。	・関数の発展問題において，入試対策プリントの解説をしながら問題に慣れさせる。また，「何を求めたくて，今何が分かっているのか」をグラフに書き込ませながら問題を解くよう指導していく。
データの活用	○確率やヒストグラムを読み取る問題に関しては，すべて市の平均や全国平均を上回っている。 ●箱ひげ図を利用いた問題の正答率が，市の平均を下回った。	・箱ひげ図について基礎的な学習から復習させていく。特に四分位範囲，第1四分位数，第3四分位数は何を意味しているのか復習させる。また，箱ひげ図を用いることのよさについても指導していく。

宇都宮市立陽東中学校 第３学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	71.3	66.5	61.2
	粒子	74.0	70.2	62.3
	生命	74.7	71.8	65.7
	地球	70.6	65.4	61.0
観点別	知識・技能	75.1	72.0	67.3
	思考・判断・表現	70.9	66.0	58.3

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

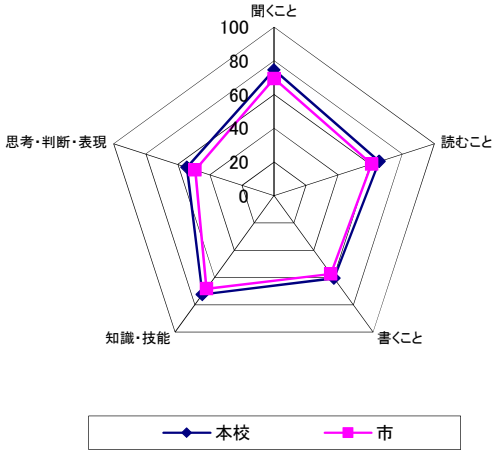
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○市平均より4.8ポイント上回っている。特に音や電流の分野では最大6ポイントほど上回っている。また、観点や基礎・活用による差は見られず、満遍なく身についている。 ●仕事とエネルギーにおける、エネルギーと物体の速さの関係性について問う問題では市平均と0.8ポイントしか差がない。	・力・エネルギー・速さなどの要素をしっかりと区別して指導し、力学的エネルギーの実験を行う上で、着目すべき点を明確に示していく。
粒子	○市平均より3.8ポイント上回っている。特に実験結果から物質が何であるかを問う問題では、市平均より7.8ポイント上回っており、74.5%の生徒が正答している。 ●メスシリンダーの目盛りを読み取る問題が、市平均と1.7ポイントほどしか差がなく、正答率も58.2%と6割に満たしていない。	・実験の操作方法や実験器具の使い方、目盛りの読み方など、実際の実験を行う際に意識して助言し、教科書やワークシート等にもマーカーを引いて強調するようにする等、指導していく。
生命	○市平均より2.9ポイント上回っている。植物のなかまや、動物のからだのつくり、子の代の遺伝子の組み合わせなどは市平均より5ポイントほど上回っている。 ●孫の代の遺伝子の組み合わせや遺伝子そのものについての2つは、市平均より下回っている。正答率も6割に満たしていない。	・子の代の遺伝子の組み合わせはできているが、その孫の代の組み合わせができていないことから、遺伝のしくみについて正しく理解していないことが予想されるため、表現型だけで示すのではなく、視覚的にわかりやすい遺伝子モデルを用いた授業を展開していく。
地球	○市平均より4.9ポイント上回っている。特に無色鉱物や火山噴出物と火山の形の関係など、火山についての問題は市平均より7ポイントほど上回っている。天気においても、天気記号を示す問題は7.8ポイントほど上回っている。 ●寒冷前線付近の雲の様子は市平均より0.9ポイント下回っている。	・前線とその近くの雲の様子について、寒気と暖気の動きや雲のでき方、前線の種類による雨の降る範囲と時間などを実際の天気図や衛星写真を用いて視覚的に指導していく。

宇都宮市立陽東中学校 第３学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	74.6	69.4	63.8
	読むこと	65.6	60.8	55.6
	書くこと	60.6	57.5	47.8
観点別	知識・技能	72.5	68.3	64.1
	思考・判断・表現	54.3	49.2	37.2

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○内容理解のリスニングでは，市平均より3.9ポイント上回っている。対話文の応答では6.2ポイント上回っている。また、様々な文の聞き取りでは，5.4ポイント上回っている。	・大問1の（1）では，市の平均よりも1.4ポイントしか上回っていない。リスニングの機会を増やし，英語の音声に慣れさせ，様々な文章を聞いて，概要を理解させるトレーニングを繰り返し行うようにする。
読むこと	○語彙の知識・理解では市平均より4.5ポイント上回っている。様々な文の読み取りでは、市平均より6.4ポイント上回っている。長文読解では市の平均を5.2ポイント上回っている。 ●語形・語法の知識・理解では、市平均と2.8ポイントほどしか差がない。	・疑問詞＋動詞の原形，現在完了の文の読み取りでは，市の平均との差があまりない。基本的な文型の練習を口頭で行ったり，書いたりするトレーニングを行い，基礎・基本の定着を目指す。
書くこと	○場面に応じて書く英作文では，市平均より6.3ポイント上回っている。 ●語順並べ替えによる英作文は、市平均を2.0ポイントしか上回っていない。 ●3文以上の英作文では市平均より2.4ポイントほどしか上回っていない。 ●don't have to～の文では，市の平均を3.0ポイント下回った。	・大問9の（3），（4）では，基本的な文の語順を理解して正確に書く点において課題が見られた。基本文の口頭練習と書くトレーニングを単元ごとに実施するとともに，単元テスト等を活用し，ひとりひとりの弱点を細かく見取り，フィードバックする。

宇都宮市立陽東中学校
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
(1)主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善 (2)タブレット端末を活用した個別最適化された学びの実現 (3)生徒自らが学びに向かう学習評価の在り方	左のテーマに基づき，一人一授業を全教員が実施し，お互いに授業を見合い，意見交換することで，教職員の指導力向上を図る。	全ての教科において，市の平均正答率を上回った。「学校の授業がどの程度分かりますか。」についての肯定的回答は，1年生は3.4ポイント，2年生は5.7ポイント，3年生は1.9ポイント市の肯定割合を上回った。対話的な活動については，1年生と3年生で，「話合いに自分から進んで参加している。」と「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる。」の2項目において市の平均を若干下回った。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	・「AIドリルの日」の設定（朝会のない水曜日）。AIドリルログイン回数：1年6005回，2年6905回，3年6495回（2023.1.25現在） ・2・3年生の希望者を対象にしたステップアップ学習（宇大生4人参加）。 ・自主学習ノートの活用，学級担任による確認。生徒が自主的に学習に向かう習慣作り。	1年生では，平日の学習時間については1時間くらいと回答した生徒が一番多く30.1%で宇都宮市の26.5%を上回っている。土日は2時間くらいと回答した生徒が最も多く20.4%で，宇都宮市の平均より上回っている。2年生では，平日の学習時間は1時間程度と回答した生徒が最も多く27.96%で，市の平均を4.6ポイント上回っている。土日では，1時間程度と回答した生徒の割合が最も高く22.6%で，市の平均を1ポイント上回った。3年生では，平日，土日ともに3時間以上学習に取り組んでいる生徒の割合が最も高く，どちらも市の平均を2ポイント程度上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

（１）全国・県・市の学力調査から
・全国学力学習状況調査，とちぎっ子学習状況調査，市学習内容定着度調査では，全ての教科及び領域において国，県，市の平均正答率を上回った。しかし，国の調査では，思考・判断・表現を問う問題に関しては，無回答率が高い問題も多く，基礎・基本を活用する力が十分育っているとは言えない。市の学力調査では，「書くこと」の分野において，市の正答率を0.5ポイント下回った。特に「文章を書く」ことに関する問題では，市の正答率を3.9ポイント下回った。また，県の学力調査では，国語の漢字の書き取りや社会の「排他的経済水域の理解」の設問，理科のエネルギーに関する設問等での平均が県の平均を下回った。この結果を受け，来年度は，職員で情報を共有し，苦手分野の克服に努めていきながら，学習内容の定着度下位群の定着度を引き上げるとともに，上位群の定着度を更に向上させる指導をしていきたい。
（２）県・市の児童生徒質問紙から
市の質問紙の「授業で習ったことを，その日のうちに復習している。」では，２年生で34.1%で，市の平均を4.3ポイント下回り，３年生で38.9%で，市の平均を4.6ポイント下回った。県の調査では，毎日同じ時間に学習に取り組んだり，就寝したりしているかとの問いに対しての肯定割合が県や市を下回った。また，「家の人と学校での出来事について話をしている。」が県平均より５ポイント，市平均より6.2ポイント下回った。このことから，次年度は家庭での学習時間帯や就寝時間等を生徒が自主的に考えて行えるようにするなど，学習習慣の確立に努めること，また，学習だよりや学年通信を通して保護者に情報を発信していくこと等を行っていきたい。
（３）授業等への取組状況から
・市の質問紙で１年生では，「授業に必要な学習用具は忘れずに持ってきている。」という問いに対して89.3%で，市の平均を2.8ポイント下回った。「グループでの話合いに自分から進んで参加している。」では，76.2%で，市の平均を3.5ポイント下回った。
また，県の生徒質問紙の中の「家で，テストで間違えた問題について勉強している。」についての肯定的回答は62.3%で，市の平均よりも5.0ポイント、県の平均よりも6.6ポイント下回った。「宇都宮市のよさを紹介することができる。」では，全学年で市の平均を下回った。このことから，次年度は持ち物等を徹底させ，話合い活動や振り返り活動を充実させることにより，生徒の主体的な学習へとつなげていきたい。また，「宇都宮学」の授業においても郷土のよさを発信できるような対話的授業を展開していきたい。